

F U E K I

不易

vol.46

変わらぬ思いと、変わる姿

「公益財団法人移行 特集号」



Photo:Keita Sugiura



## 変わらぬ思いと、変わる姿

福武教育文化振興財団の

### 不易と流行

題名を「不易」としたのは、教育と文化のいずれにおいても、変遷著しい社会や人の心は十分に認識し、それらに対応することは必要ではありますが、いたずらに社会の変転に右顧左眄することなく、依って立つべき不変の基本理念をしっかりと押さえ、それに従って財団を運営し、諸活動を展開していかなければならないという、自らの戒めを表したものであります。不易の本質は時代を超えて優れたものに共通する本質的なものであり、一方、時代的、社会的な進展・変化に賢明に対応して一新・変化の実を挙げるのが流行でありましょう。

【平成10年機関誌「不易」の創刊号、谷口氏の「ご挨拶」より】



ごあいさつ

財団法人福武教育文化振興財団は、現在のベネッセホールディングスの前身である「福武書店」の創業者、私の父 福武哲彦の「岡山県の教育・文化の進展に役立ちたい」との願いで昭和61年8月29日に設立され、以来四半世紀にわたり、この分野の振興発展に力を注いでまいりました。

そして、平成24年4月1日、公益財団法人として新たにスタートいたしました。設立から現在に至るまで、ご支援をいただきました皆さまに心からお礼申し上げます。

今、この国の姿を見ると、私は、「未来からの留学生」である青少年がグローバル化した世界の中で力強く求める道を進むことができるのか、また、誰でもが迎える高齢のときに幸せな笑顔で過ごせる地域社会であるのか、とても不安に感じています。

家庭や地域の教育力、子ども自身の学力や生きる力の向上、グローバリゼーションへの対応など、教育の課題は山積しています。

また、「よく生きる」ためには、文化・芸術の力が必要です。個性や感性を表現したいという気持ちと、それを理解しようとする気持ちの相互の交流からは、素晴らしいコミュニケーションが生まれ、地域づくりの原点となります。そして文化・芸術には、時間と空間、国や言葉を越えた広がりがあります。

教育と文化の振興、それらは決して異なるテーマではありません。当財団はこれを実践し、人々の活動を応援することで、岡山県の地域づくりと人づくりを目指しています。

金融資本主義が崩壊するなか、社会のほとんどの富を創造する企業は、どのようにして社会に貢献していくべきでしょうか。私は、企業が自らの株式により公益を目的とする財団を設立し、すなわち財団が企業の株主となり、得られた配当を資金として社会貢献をする仕組み ―私は「公益資本主義」と呼んでいます― が最適と考え、当財団を設立しました。この考え方を実践し、そして成果を全国、世界に伝えたいと思っています。

現在の子どもの姿、地域社会のお年寄りの姿を思い浮かべ、一人ひとりが「よく生きる」ことができる地域づくり、人づくりが必要です。

このために、公益財団法人となった福武教育文化振興財団は、これからも皆さまの「学ぶ」「活かす」「創る」「伝える」を応援し続けます。

平成24年4月

公益財団法人 福武教育文化振興財団  
代表理事 理事長

福武 総一郎





Photo;Daisuke Aochi



私はよく「経済は文化の僕（しもべ）である」と呼んでいます。人々を心豊かにするのは経済活動だけではできません。文化、すなわち「人々が幸せになれる、いいコミュニティづくり（お年寄りの笑顔があふれる社会づくり）」のために経済はあるのだと私は思います。

【平成22年8月6日 「瀬戸内国際シンポジウム2010」における福武総一郎氏スピーチより】

# 誕生

## 財団法人 福武教育振興財団の誕生

私は、「文化」から外れるような仕事はしたくない。金儲けにつながらなくても、福武の質の向上になる。たとえば財団法人福武文化財団の構想などは、私のビッグドリームである。

【昭和58年1月5日 福武書店始業式での福武哲彦氏訓示より】

—財団法人福武教育振興財団設立趣意書より—

福武哲彦氏にあっては、生前から会社として教育に関する事業を営むほか、個人としても教育文化に深い関心を持ち、美術工芸品の収集、図書館に対する図書の寄贈など岡山県の教育文化の発展に多大の功績を残した人である。また、広く学術・文化の各分野にも意を尽くした人である。このたび相続人福武総一郎氏にあっては、個人の意思を継承するため岡山に根差した教育財団として財団法人福武教育振興財団を設立しようとするものである。

昭和61年の設立後、初代理事長に岡山県教育界の重鎮で、兵庫教育大学学長の谷口澄夫氏を迎え、教育研究に対する助成を開始し、翌年からは「福武哲彦教育賞」を設け、助成と表彰を二本柱とする活動が始まりました。

## 財団法人 福武文化振興財団の誕生

福武教育振興財団の設立10周年となる平成8年に、財団の基本財産を分割して、既成文化の枠にとらわれない文化の創造を目指す「福武文化振興財団」を設立し、岡山県で教育と文化の発展に寄与する2つの財団が活動を開始しました。

—財団法人福武文化振興財団設立趣意書より—

現在、各地において生涯学習時代に対応した諸施策が実施され、市民レベルにおいても幅広く文化活動が行われている。しかし、活動団体間の連携の不十分さや、資金面の厳しさなど多くの解決すべき課題も指摘されている。そこで、新たに財団法人福武文化振興財団を設立して、「文化活動の振興」を支援する。二つの財団は、主として岡山県の教育と文化を支援する車の両輪であり、お互いの特色を発揮することにより、教育及び文化活動振興のために実用な諸事業を展開し、教育文化の発展に寄与しようとするものである。



故 福武哲彦氏



故 谷口澄夫氏

# 統合

## 財団法人 福武教育文化振興財団として統合

教育財団が20周年、文化財団が10周年を迎えた平成19年4月、教育・文化振興の両事業をさらに効率的・一体的に実施するため、2財団が統合され再スタートを切りました。再出発した「福武教育文化振興財団」は、2つの財団の全ての事業を引き継ぐとともに、表彰、助成に加えて、オーストラリアや中国への若者の派遣事業、瀬戸内国際芸術祭関連事業や「犬島 海の劇場」などの新たな事業も展開しています。

1. 犬島 2. 鯉のぼり(国吉康雄、1950、福武コレクション) 3. 宇野のチヌ(淀川テクニック、2010、宇野港) 4. 「台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき」(維新派、2010、犬島)

# 出発

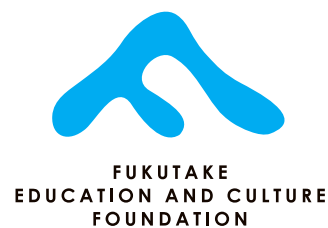
## 公益財団法人 福武教育文化振興財団として新たな出発

そして、国の公益法人改革の中、財団法人福武教育文化振興財団は、平成24年4月1日公益財団法人として歩み始めました。

- 目 的 教育文化活動に対する支援等を行い、人材の育成と地域の発展に寄与
- 事 業 1 教育文化活動支援事業  
2 国際的人材育成事業  
3 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

事業区域 岡山県  
基本財産 基金 235,000千円 株式会社ベネッセホールディングス株式 150万株  
事業収入 主として上記株式の配当収入

### 財団のロゴマークについて



福武教育文化振興財団のロゴマークは「F」をモチーフに、人と人との結びつき、支え合いを表し、教育や文化を通して地域づくりに情熱を燃やす人々を支援していく財団の活動を表現しています。「F」はFUKUTAKEの「F」、FOUNDATIONの「F」であり、同時にFree、Fair、Family、Friendなどの「F」でもあります。またマークの色は「空の色・スカイブルー」です。空は世界に広がり、その空の下で繰り広げられる人間の活動を寛大に、平等に見守っていると考えるからです。デザインはグラフィックデザイナー・田中雄一郎 (QUA DESIGN style) 氏。





## 福武教育文化振興財団の主な活動

<< 平成 24 年 3 月現在 >>

### I 表彰事業

#### ◎福武哲彦教育賞・谷口澄夫教育奨励賞

岡山県の教育研究や実践に顕著な業績をあげ、又は今後の活躍が期待される皆様にお贈りしています。教育賞 62 件(昭和 62 年度から)、奨励賞 46 件(平成 13 年度から)の皆様を表彰しました。

#### ◎福武文化賞・福武文化奨励賞

岡山県の文化芸術の向上や文化による地域振興に大きく貢献し、又は今後の活躍が期待される皆様にお贈りしています。平成 12 年度から文化賞 24 件、奨励賞 44 件の皆様を表彰しました。

### II 助成事業

#### ◎教育研究助成

公募により、学校・地域における学力と教育力を向上させるための研究や実践活動を応援しています。昭和 62 年度から延 976 件、総額 1 億 9,100 万円を助成しました。

#### ◎学力・人間力育成推進事業助成

学校・家庭・地域の教育力の強化と教師の指導力向上を通じて、児童生徒の学力・人間力の豊かな育成を図るための研究・実践活動を応援しています。岡山県内の子どもたちの学力低下が問題となった平成 18 年度から 15 件(原則として中学校区)、総額 4,900 万円を助成しました。

#### ◎文化活動助成

伝統文化の振興や文化芸術活動の展開、新たな地域文化の創造などにより、地域の活性化を目指す活動を応援しています。平成 9 年度から延 1,065 件、総額 2 億 250 万円を助成しました。

### III 研修会等開催事業

#### ◎小学校教員英語研修

小学校教員の英会話能力を向上させるために、テレビ会議システムを用いて、岡山市から遠隔の地域で集中的な英会話レッスンを行うものです。年に 4 地区を選定し、1 地区あたり 10 人程度で、夏季の 2 週間に延 2,000 分のレッスンを行います。平成 15 年度から 18 地区 21 市町村、延 340 人の教員が受講しています。

### IV 「犬島海の劇場」事業

犬島アートプロジェクト「精錬所」が展開されている岡山市東区の犬島を主な舞台として、「犬島 海の劇場」と題し、舞台芸術の公演やアーティストによる学校での創作活動などを行っています。

### V 海外教育調査研究・研修事業

教育関係者と若者(主に高校生)に、国際的な幅広い視野と、進学・就職についての多くの選択肢を体感させる機会を与え、世界に雄飛し活躍できる人材を育成しようとするものです。平成 20 年度からは、先進的な教育制度を確立しているオーストラリアに派遣し、英語力と技術、知識が効果的に取得できる制度や、留学生へのサポート体制を体感してもらっています。

## 日本人である前に地球人であれ

日本は、世界との関係、コミュニケーションがないとやってゆけない国だ。世界の共通語である英語は、日本語と同じくらい話せないといけない。英語のコミュニケーション力は、自分の生きる場や活躍の場を広げる。

世界を知らないと、よりよい日本を作ることができない。世界を見ないで自分の経験だけで判断しても、世界を知っている人には勝てない。いろんな国の、考え方が違う人々と接することが勉強になる。世界を知ることによって活躍の場が広がる。

今、君たちには、海外で活躍することをぜひ将来の選択肢のなかに入れてほしい。日本人はもっと世界に出なければならない。日本の将来を君たちに託したい。

【2011年8月20日プレ体験留学参加者への福武総一郎理事長講演要旨】

1	2
	3
4	
5	7
6	8

1. 「風景画」(維新派、2011、犬島)
2. 助成事業(贈呈式)
3. 市川教授による公開授業(学力・人間力育成推進事業)
4. 移動演劇・宮本常一への旅「地球4周分の歌」(村川拓也演出、2011、犬島)
5. 文化フォーラム「ここに生きる、ここで創る」(2012、ルネスホール)
6. 白石踊会(表彰事業受賞者の活動)
7. 六条院小学校学習支援研究協議会(助成対象者の活動)
8. 福武理事長講演(プレ体験留学、オーストラリア)

2011年春。そのとき日本は絶望と混乱の中にいました。あれから1年が過ぎ、今年も春がやってきます。表紙の綿毛の写真は真庭市久世で制作活動をされていた石村朋子さんの元を訪ねた時、アトリエにあったものです。残念ながら彼女は昨年10月にこの世を去りました。

小さな小さな籐かごの中に綿毛がひっそりとひしめき合う様は、まるで彼女の宝箱を覗いたようなささやかな驚きを私にもたらしくれました。そこで日々の中で気にも留めることがなかった小さな種子の造形の美しさに初めて気づかされたのです。

彼女はそんな自然の中から美を掬い取ることでできる特別な感性の持ち主でした。それは驚きと発見に満ちたなんと豊かな毎日なのかと想像します。

現在私たちは解決するべきたくさんの問題に囲まれ泣々としています。こんな時に足元の花を見ている場合ではないのかも知れませんが、自然に対する「畏れ」は先人が生活の中で連綿と培ってきた稀有な価値観なのです。

それをないがしろにするのは現代人の驕りであり傲慢なのだという事を、1年前我々は身をもって学んだはずです。これからはそれをどう生かすのが私たち残された者の仕事なのです。

2012年、今年も春がやってきます。種子は風に舞い上がり遠くを目指します。本誌がたくさんの人に春の息吹の知らせとして届いてくれることを願っています。

すぎうらけいた / 写真家 1980年岡山県生まれ。津山市在住。2008年「GEISAI #11」銅賞、「I氏賞」大賞 / 2009年「Daydream」(MaxProtech Gallery/ニューヨーク) / 2010年福武文化奨励賞、「ink jet」(CASHI/東京)、「杉浦慶太展—農村の意匠—」(奈義町現代美術館/岡山)

## Editor's comments

今回の「不易」は、4月1日公益財団法人に移行したことのご報告とお礼、そして改めて当財団の姿をご覧くださいたくための特集としました。

「不易と流行 ～変わらない理念と時代に応じて変化していく姿～」

これをお伝えしながら、公益財団法人としてさらに岡山の皆さまにお役に立てるよう、財団の不易たるものを自ら確認しようと思いました。「財団は、これまでの25年間の活動で設立者やリーダーの思いをきちんと反映できたのだろうか、本当に岡山県の教育・文化の振興、お年寄りの笑顔あふれるコミュニティづくりに寄与できたのだろうか」と自戒をしながら。

常に基本に立ち返り、託された大切な資産を活用して、公益を最大にし事業の成果を上げられるように変革していかなければならないと決意を新たにしています。

公益財団法人福武教育文化振興財団は、教育・文化を通じて、人づくり、地域づくりに真摯に向き合う取り組みを応援します。今後とも皆さまのご支援いただきますようお願いいたします。

事務局 中野 行雄  
佐々木啓文  
三宅千代子  
植月 公子  
和田 広子  
伊藤美代子

季刊

不易

F U E K I vol.46 2012.4.1

編集・発行:

公益財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17  
株式会社ベネッセコーポレーション本社3F

TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190

URL <http://www.fukutake.or.jp/>E-mail [eczaidan@fukutake.or.jp](mailto:eczaidan@fukutake.or.jp)制作:  
株式会社 吉備人デザイン:  
田中雄一郎(QUA DESIGN style)印刷:  
広和印刷株式会社FUKUTAKE  
EDUCATION AND CULTURE  
FOUNDATION

人づくり、地域づくりを応援します

公益財団法人 福武教育文化振興財団